

# 石割平造著『支那城郭ノ概要』

旧陸軍軍人の目を通して見た中国の城郭都市

愛宕元

“The Introduction to the Chinese Walled Cities” by ISHIWARI, Heizo

## 【論文要旨】

昭和十五年に刊行された旧日本陸軍工兵少佐の石割平造著『支那城郭ノ概要』は、昭和十年代には中国各地に数多く残っていた明清以来の城郭都市について、その構造や立地等を網羅的にかつ詳細に記録にとどめた、中国城郭史研究にとってきわめて貴重な史料となり得るものである。言うまでもなく、本書の執筆動機は旧日本軍の中国侵略に際しての攻城戦を前提としたものである。しかしながら、「改革開放」という巨大な経済開発のうねりの中で城郭都市の城壁が急速に撤去され、城内の古い町並みが失われつつある今日の時点であらためて見直してみると、中国の城郭都市に関する歴史的研究という見地からは得るところは少なくない。

本書には、一〇一カ所におよぶ城郭都市の一万分の一平面図（一部は一万二千五百分の一図）を示し、それらの城高、基部と上部の城厚、女牆の高さや設置間隔、甕城の有無を含む城門構造、城壁の馬面設備の有無、城郭四隅の構造、城壁上への連絡路

の形態、土城か甌城かという築城素材、城壁の断面、城壁外面の傾斜度、城濠の幅や深さ、城濠の水の有無、城濠に架かる橋の長さや幅、橋桁から濠水面までの距離、濠外の堤防や土塁の有無、城郭内の主要街路、城外から城門に通じる主要街道、城内の戸口数の概数と家屋の密集密度、省政府や府州県庁舎の所在地、寺院・道観・祠廟などの大型建造物の所在、城内の池沼やクリークの所在、城門外の城関の規模と形態など、城郭都市の全体的な構造を把握する上での詳細な情報が示されている。

本稿では、中国城郭都市の沿革、その種類、構造各部の説明などを概観した本書の総説部分を紹介する。併せて近年の城郭史研究の蓄積や考古学的な成果を出来る限り詳細に取り入れた註を付した。著者はまた日本の城郭との比較をも試みており、誤解や錯誤がままあるものの、日本人の目を通して見た中国の城郭としてそれなりに興味深いものがある。